

ビジュアルコンテンツのプレゼン手法の開発

Development of methods for presenting visual contents

鯉沼 万貴子 Makiko Koinuma / 研究員



研究目的

デジタルアーカイブの技術開発が進む中、高精細高画質な画像の取得が可能となり、その活用方法が問われている。撮像対象の『今』の姿を保存することと共に、『今』の姿を関係者のみならず、広く発信していくことが求められている。紙媒体、web 媒体など様々なツールを介して、閲覧者が対象にアクセスする場合、そのビジュアルの美しさと共に、『伝える』ことが重要であると考え。本研究では、超高齢化社会・グローバル社会を迎えた中で技術者、青年層のみならず、多世代の人にデジタルアーカイブのコンテンツを的確に伝えるプレゼン手法を開発することをその目的とする。

研究内容

研究対象は、2011 年度デジタルアーカイブを行った仁和寺観音堂を対象とする。観音堂は通常非公開であるため、データ公開に対しては十分に配慮する必要がある、作成したコンテンツの実際の活用については仁和寺様に委ねることとする。現在、デジタル化の進歩と共に、様々なソフトウェアでのプレゼンテーションが可能となっている。紙媒体だけでも、Microsoft 製 Word、Adobe 製 Indesign などのソフトを用いた多種多様な表現方法があり、日々その進化は激化している。Web 媒体についても、動画や3D 技術により、見る・知るだけではない体感型のプレゼンテーションが可能となっている。その使用目的に即したソフトウェアや技術を選択し、そこで作成したコンテンツを組み合わせることにより、多様な閲覧者の様々な興味や要求に応えることのできるデジタルアーカイブに最適なプレゼン手法を開発する。

さらに、観音堂は来年度以降改修工事が始まることが決まっており、高精細高画質の障壁画デジタル画像により、詳細に文化財の劣化状況を把握し、今後の改修計画に役立てることを目指す。

今後期待される成果

デジタルアーカイブを広く発信し続けるためには一過性のものでなく、更新し続け、常に新しい情報を加えていく必要があると考え。プレゼン手法の開発により、マニュアル化され、誰でも簡単に更新できる工夫を行い、文化財所有者が利用者との関係により適した情報を発信続ける仕組みづくりを成果とする。